

田村正夫先生を送る

「たしかに魂は見えないところにかくれているが、もしほんとうに存在するものならば、それは外側の形の上に現れずにはおかない。」

講義に向かわれる先生はいつも背筋を伸ばされ、淡々とにこやかにしかも毅然と目を上に向けておられるのでした。そのお姿を思い浮かべますと、どこかで読んで心から離れなかった今は亡き白州正子女史のこの言葉が、浮かんでまいります。

先生のご専門は地理学でありました。たまたまこの研究誌の編集委員にあたったのでこの一文を記すことになったのですが、その任に値せず、また分野の違う者には先生のご研究の内容についてはなにも書くことはできませんし、すべきでもないと思っております。その代わりに、ご専門の領域で先生のご後輩に当たり、本学助教授から筑波大学教授になられた小口千明先生のお作りになった著作目録を見ていただければと存じます。ご業績の優れて、評価の高いことは、一目瞭然であると存じます。

本城西大学において、先生の学生の教授指導は、お心こめたものでありました。出席カードの裏にその日の授業の感想を学生に記させ、学生たちにたえず心を配っておられたのでした。学生への不満、非難を先生から伺ったことはありませんでした。またいわば公務とも言うべき事においても、悔いを千載に残すやもしれない、日本中の大学を駆け巡っている教養教育の解体のしばらく前まで、教養課程の主任として、その充実のためにその任を果たされたのでした。その期間通算10年以上におよび、わたしたちの先生への信頼はこれを持ってご理解いただけるであらう。

いつの時であったか、何のことについてであったか、今はもう忘れましたが、経済学部教授会がギリギリの判断を要求され、教養主任として意見を求められた折り、田村正夫先生は、神はいつもどこでもわれわれを見ておられる、そし

て判断を下される，とおっしゃられたことがありました。これは，おそらく，城西大学で最初で最後のご心中の吐露ではなかったか，と想像されます。

先生は敬虔なクリスチャンであられた。見下す神の大きな眼差しを，常におかれ，それをもととしてすべてを考えておられたに違いありません。先生の挙措を包んでおりましたなにか澄んだものは，先生のご信仰の深さと，人としてのご苦悩の深さであったのではないのでしょうか。

先生のような方をお送りするのにいささか任が重すぎます。あとは小口千明先生の作ってくださった著作目録を見ていただくこととして，その前に先生の略歴を記させていただき，向後のご健勝とご自愛をお祈り申し上げながら，この拙文の筆を置かせていただこうと思います。

人文研究編集委員

河 内 信 弘